

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
<p>&lt;めざす学校像&gt;『信頼、感性、実行』○授業を大切にしている学校、○一人一人の生徒を大切に、心を育む学校、○保護者・地域から信頼される学校                      &lt;めざす子ども像&gt;『規律、礼儀・夢』○礼儀正しく、挨拶と美しく整った環境づくりに励む生徒、○人権を尊重し、思いやりと感謝の心を持つ生徒、○主体的に学習に取り組み、粘り強く学び続ける生徒、○自尊感情を持ち、将来に対して夢や具体的な目標を持つ生徒                      &lt;めざす教員像&gt;『熱意、誠意、創意』○専門職として研修を深め、創意工夫をする教師、○誠意のある言動で、生徒に親しまれ保護者に信頼される教師、○高い人権感覚をもち、健康で心豊かで情熱のある生徒</p>		挨拶・掃除を中心とした基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外における挨拶ができるよう、地域に協力依頼を行う。定期的に生徒の挨拶の状況を確認し、学校で指導を行う。</li> <li>・教室の整理整頓を毎日行うとともに、行事の前後で使用場所の簡単清掃に取り組み。</li> </ul>
		自尊感情と確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育をテーマとし、生徒の自尊感情が高まる内容に取り組み。</li> <li>・授業で勉強した内容の定着をはかるための家庭学習用課題を与える。</li> </ul>
		不登校生徒の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のコミュニケーション能力を高める。</li> <li>・不登校対応マニュアルとして、欠席日数に応じた教職員の対応を明確化する。</li> <li>・不登校生徒が学級における存在感を感じられるような取組を行う。</li> </ul>

重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明
挨拶・掃除を中心とした基本的な生活習慣の確立	・学校での挨拶・掃除の徹底を、全職員で確認し、生徒会を巻き込んだ日常の活動として結果の“見える化”を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケート結果から挨拶に関する肯定的な回答は95%であり、指標を上回った結果となった。但し、校内での挨拶の状況は結果通りと思うが、校外においては低い値と考える。</li> <li>・学校生活アンケート結果から清掃に関する肯定的な回答は80%であり、指標通りとなった。清掃に関しては個人差が大きく、環境整備に対する姿勢について学習していく必要がある。</li> <li>・毎日提出させている連絡ノートで、生徒の家庭学習状況や悩みなどを掘み、随時面談等を行う様になっている。</li> <li>・清掃活動においては、生徒会とのコラボが実現できていない。</li> </ul>
	・連絡ノートや学校生活アンケートで生徒の家庭における実態を把握することで、家庭との連携をさらにとる。	
	・年度末までに挨拶アンケートにおいて、肯定的評価を全体の85%以上にする。	
	・年度末までに清掃アンケートにおいて、肯定的評価を全体の80%以上にする。	
自尊感情と確かな学力の向上	・個に応じた学習指導方の工夫をテーマとし、生徒の実態を十分に把握し、教材・教具の開発や指導法の工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習定着度の結果、市平均と比較し1年国語は102%、数学は94%であり、2年生国語は106%数学は107%という結果となった。1年生数学が福岡市平均より低く、特に学術的な技能面が努力を要する。</li> <li>・Q-Uアンケート結果から、要支援群に位置する生徒数1・2年生合計は、1回目と2回目は変化がなかった。但し学級生活不満足群においては、1年生で1%減、2年生で2%減となった。</li> <li>・研修テーマを個に応じた学習指導方の工夫として、全教職員が授業を行ったが、十分に参観できる時間措置ができなかったため、お互いの交流が不十分であった。</li> </ul>
	・生徒間の交流活動場面を多く設定し、互いの良いところを発見し、心の成長が見えるように特別活動を仕組んでいく。	
	・1、2年生は市学習定着度調査で、3年生は学力診断テストにおいて、市平均と比較し、110%となるよう指導する。	
	・1、2年生において、第1回Q-Uアンケートの結果から要支援群の生徒を第2回までに10%減少させる。	
不登校生徒の減少	・家庭や関係機関との連携を密にとりながら、学年・学校全体で生徒の共通認識をし、対応策を検討していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間30日以上欠席の生徒は1月末現在昨年度より11名減少し、ステップルーム利用者は4名増加した。悩みを抱えた生徒の早期発見、早期対応及び予防のための取組が不十分であった。生徒の悩みが年々深く複雑化しており、職員研修をさらに強化していく必要がある。</li> <li>・家庭との連携や不登校生徒との関わりが一部で不登校対応教員中心となっている場面が見られる。日々の連携が取りにくいこともあるが、情報共有しながら、同じ方向性で生徒を支援していきたい。ステップルームの利用者が増えた。全生徒へ不登校対応教員の業務内容について周知させたい。</li> </ul>
	・教師のカウンセリングにおける力量アップと、さらに魅力ある授業づくりや学校行事の検討を行う。	
	・年間30日以上欠席者を、新たに(昨年度長期欠席者以外に)出さないようにする。	
	・担任及び不登校対応教員の働きかけで、登校できない生徒をステップルームに登校できるようにする。	

学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)

- ・学校の近くだと挨拶をよくするようであるが、学校から離れた場所、休日や祝日は挨拶が特定の生徒のみにとどまっている。
- ・生徒の単語言葉が多く聞かれ、会話が会話として成り立たなくなりつつある。メールのやり取りで、短い言葉や絵文字で気持ちや感情が伝わりにくくなっている。
- ・落ち着いた学校生活で、生徒が学校に行くことや友だちと一緒に過ごすことを気持ちよく感じているようで安心した。
- ・中学校に入学し、学力が伸びていることは大変うれしいし、何より本人にとっての自信や保護者にとって喜びにつながると思う。
- ・不登校となる原因が複合化しており原因究明は大変だと思う。家庭環境も影響があるのではないだろうか。関係機関と連携しながら学校の取組に期待したい。